

## 日本工科専門学校（姫路市兼田）の学外実習

土木や建築系専門学校の非常勤講師を昨年から勤めている。私の守備範囲外の分野を学ぶ学生たちに、生物系の科目はどうなのかな？と思った。しかし、学校長の考えは、これからの土木技術者は環境に配慮した設計や工事をしなくてはならないと考えて、そのきっかけ作りになればいいということだった。これには大いに共感したので“ビオトープ論”と“生態学”というタイトルで週に3時間の講義をする事を受けた。高校時代に生物を学んでいない学生に、どの程度のレクチャーが出来るのか少々の不安もあったが、6人の学生たちは、個性を見せつつ、それぞれの反応を示してくれた。今年は倍増の14名の一年生の授業となった。一昨年は3名とのことであるから、倍々の増加率である。結構、県外からの入学もあり、卒業生の就職については売り手市場の状況だそうである。

そんな所へ妙な教師らしくない人間がやってきて、変わった授業を始めるのであるから学生にとっては迷惑千万なことになるのかもしれないが、実は選択科目なのであるから受けなくてもいいのだ。私は、その昔22~24才の新米教師をしていたが、その当時から今でも眠くなったら眠ることを勧めてきた。昼食後の睡魔に襲われる時間帯なのだから10分でも熟睡して残りの時間に集中したらいい。全時間を椅子の上で横になっていた学生もいたが成績は“優”を取った。変な教師の授業にも強い関心を持って居てくれた証拠だろう。

専門の授業が詰まっている所で、息抜きにちょうど良かったのかもしれない。さらに、学外実習を試みると、ハイテンションの様相を示してくれた。まあ、人間も動物であり、豊かな自然環境は生理的にもハイにする物が有るのだろう。オオサンショウウオの生態観察や人工産卵巣穴の見学は印象深い物があったようだ。感想文では、オオサンショウウオが大きすぎて驚いたが、そのでかい80kgもある奴を掴み出した人間を尊敬するとお褒めに預かった。河川横断工作物（堰堤）の改善事業で兩岸に各3種類の魚道を設置した揖保川の吉島統合頭首工を見学したり、姫路市林田町の環境学習センターでビオトープのメダカを捕まえたり、希少水生植物の移植を手伝ったりした。また、一昨年の洪水災害を受けて復旧工事中の円山川支流出石川の多自然型工事現場で土木事務所の説明を受け、救出されてニジマス養殖池に収容されている400個体ものオオサンショウウオに歓声を上げていた。きっかけ作りになった事と確信を持った。

## 愛知県瀬戸市の庄内川水系蛇ヶ洞川

### オオサンショウウオ棲息調査開始

“愛地球博”が開催された瀬戸物の名にうたわれている瀬戸市は、オオサンショウウオの分布の東限と言われている岐阜県の南側にある。瀬戸物の原材料である粘土が流れ込んで昔は白い川と呼ばれた庄内川の支流に蛇ヶ洞川（じゃがほらがわ）がある。ここは残念なことに産業廃棄物と一般のゴミ不法投棄で折角の溪流美が抹殺されている。家電製品からあらゆる家具類、ガラスや建築廃材など見るも無残な光景となっているのだ。さらに、今マスコミを賑わせている埋め戻し材とかいうフェロシルトの山から降雨の度に赤い液体が流れ込んで赤い川となっている。

この凄まじい河川環境再生を願って、地元の「瀬戸のサンショウウオを愛する会」や「名古屋市水辺研究会」のメンバーが長年戦ってきた。オオサンショウウオの繁殖が確認されたり地道な環境学習会などを根気よく継続させてきた成果だと思う。こういった素人グループのパワーには敬意を表したい。繁殖現場の護岸が壊れて工事が行われることになり、その相談を受けたりオオサンショウウオの貴重性や対策工事について講演をしたのをきっかけに、再々出掛けている。工事箇所はコンクリート護岸の裏側から豊富な伏流水が出ていて、本種の繁殖巣穴を構成するには好条件の環境だった。地域の多くの人々からは汚らしいヤブを綺麗なコンクリにしてほしいと言う願望があった。そうすれば草刈りや破堤などの煩わしさから逃れることが出来るからだ。

その一方で、そこにある屋敷林から続いた河畔林は 250年も土手を洪水から守ってきてくれており、唯一ホタルを見ることが出来る場所でもあり、ホタルは残してほしいというものであった。現在の工事の基本は50年とか 100年とかにやって来る確率の大水に耐えるものである。250年も土手を守ってくれている林を切り払うことは大間違いだし、そのヤブが無くなればホタルも居なくなってしまうということで、残されることになった。

このような環境問題に関心が高まるなかで、平成18・19年度にかけて文化庁の補助を受けた生息調査が始まったのである。本格的な調査は名古屋市東山動物園のメンバーが行ってきており、すでに41個体に識別用のマイクロチップが挿入されていると言うことで、そのデータを頂き調査を実施することになった。蛇ヶ洞川全流程約6kmを3ブロックに分けて3チームを編成し、3夜連続調査を行った。1チームずつ順番にサーチする範囲を変えらることで、全員が全川を踏査することができた。メンバーの中には毎日川を見ているという地元の70才代の婦人も参加していたが、大変に元気な方だった。

結果は、上流区は0個体、下流区で新規個体が1、東山動物園の調査フィールドである中流区で再捕4とチップの入った死体1であった。生息数が少ないと考えてはいたが、繁殖も確認されておりもう少し多い出現を期待していたが、工事現場に設置されていた人工巣穴で産卵があり守っている個体の存在も水中カメラで確認できたのは大きな成果だ。

## 滋賀県立琵琶湖博物館

### 川那部館長フラリと来所

暑さに弱い川那部先生は私のハンザキ研究所への誘いに、涼しくなってからとのお返事でした。事実、開館十周年記念式典日にお訪ねすると、館長室に案内されながら「寒いですよ」と念を押されたとおり、十月下旬でもクーラーが十分に効かされていた。久しぶりに、私も現役当時の姫路市立水族館の“寒い館長室”のことを思い出した。市の通達ではクールビズ流行りで28℃設定とあったが、それでは脳味噌が沸騰してしまう。部屋に入ってきた飼育係が「サムーッ」と言っ、設定温度限界の17℃を見て通達違反だと怒っていた。私の言い訳は、その代わり冬季には暖房をしないからそれで相殺してくれというもので、結果として寒い館長室となっていたのだった。川那部先生は冬でも扇子を手離すことなく、私が兼任していた島根県立宍道湖自然館に2月に来ていただいた時にも、冬の暖房下に扇子が使われていた。私も過剰な冬の暖房には辟易していたので嬉しく思い、又ホッとしました。

秋になり、オオサンショウウオの繁殖期になったのに例年なら9月初旬に産卵があるのですが、今年はだめかなと考えていました。それでも10日程遅れの、推定9月15日産卵の卵塊を護る人工巣穴のオスを確認できたので、早速琵琶湖博物館に連絡を入れました。そして10月21日の開館十周年記念式をひかえた19日に遠路ハンザキ研まで来て頂くことができたのです。40数年間にわたる宍道湖への関わりやアユの生態研究などフィールド・ワークを続けてこられた先生ですが、専門外かと思われるオオサンショウウオにも深い関心を示して頂いたのです。胸まである長靴をはいて川を渡り、人工巣穴の蓋を開けると急に明るくなった穴の底でオス親が慌てて川からの通路であるトンネル内に隠れてしまいます。残された数百の卵が真珠のようなきらめきを水底から放ってきます。何回も見ている光景ですが、その度に感動を覚え無事に孵化してほしいものだと思います。十三年目になる人工産卵巣穴の追跡調査ですが、中々うまく行きません。自然の厳しい環境下では、丁度秋の台風や秋雨前線のやってくる時期でもあり、大水のために巣穴の出入口が埋没したり、コンクリート製の巣穴そのものが流されたこともあったのです。また、自然の川岸にも奥から伏流水の出ている好適な産卵巣がそんなに多くないためもあるのでしょうか、十数匹のメスが産卵した人工巣穴も有り、多すぎて酸欠で全滅したこともありました。まだまだ、改善を試みなければならない人工産卵巣穴の現状です。

今回は、式典の直前という忙しい時に私のフィールドを見ていただきましたが、やはり夜間調査で、野生そのままのオオサンショウウオの姿をお見せしたいと思っており、次の機会には是非とも挑戦していただきたいと思います。私より一回りは上の年齢の先生ですが、まだまだフィールド・ワーカーの魂を強くお持ちのようでしたので、是非とも市川の夜の散策を楽しんで頂きたいと思っています。有り難うございました。

- 1日：オオサンショウウオの会 in 宇佐で現地視察
- 3日：オオサンショウウオ調査(GS-216)～6日
- 4日：大阪府安威川ダム建設事務所より3名来所
- 6日：日本工科専門学校の学外実習、田中学科長と学生15名来所、大水のため人工巣穴の見学は出来ず、出石川の工事現場視察、豊岡土木事務所災害復興室の尾崎室長中村課長の説明を受け、日高町のオオサンショウウオ収容池視察
- 8日：愛知県瀬戸市オオサンショウウオ第一回調査実施、庄内川水系蛇ヶ洞川で～11日
- 12日：大阪府安威川ダム建設材料検討部会出席
- 14日：オオサンショウウオ調査(GS-217)～20日
- 16日：NPOトラックにて大型荷物の搬入（冷凍庫・洋服ダンス・茶ダンス・暖房機等）
- 18日：黒川地域活性化協議会開催、井上朝来市長も初参加、22名出席  
：NPO 地域再生研究センター・東口氏来泊
- 19日：東口氏アンコ淵潜水調査、黒主に採卵器具先端を取られる、穴は岸側に2か所  
：西日本道路公団より、大阪府下の環境委員会の説明に3名来所  
：滋賀県立琵琶湖博物館・川那部浩哉館長来所、人工巣穴など視察
- 20日：揖保川水系流域委員会の現地視察（穴栗市山崎町など）
- 21日：滋賀県立琵琶湖博物館開館十周年記念式典出席“もったいない”の嘉田知事・北九州市立博物館小野館長・地球環境総合研究所日高所長や動水協の園館長など
- 24日：オオサンショウウオ調査(GS-218)～27日
- 26日：姫路市立水族館、清水・多田両氏来所・夜間調査実施(GS-219)
- 31日：オオサンショウウオ調査(GS-220)～11月3日

（今月は4回18日間の出勤？で、総計117人の利用がありました）

.....  
**ハンザキ - グッズ - コレクション 8**

**兵庫県②**

銀谷工房：ボランティアのお母さん達は、新しいアイディアに次々とアタックしています。新製品は小銭入れ（布製で蟻口：がまぐちではなく鯨口：げいぐち？）クッキー（2匹で一組）・座布団（特注でプレゼントしていただいたのですが、可愛すぎて尻に敷けず、目下使用法を考えているところです）

県・豊岡土木事務所：木彫りレプリカ（職員の自信作、次回は伝説の180kgの大物を、お願いしようと考えていますーよろしくお願いします）

姫路市立水族館・清水技師：カード各種（パソコンを自在に操るアニメ技術者です）



写真2 人工巣穴の観察ツアー



写真1 エコ・ツアー参加者が孵化した幼生を見つめる



写真3 巣穴内で孵化幼生（黄色い腹部が見える）を護るオス



写真4 黒川祭りでは水上ステージで



写真6 ミズバショウの植付け作業



写真5 ツチノコ第1号（全長70cm、体重4.13kg）

